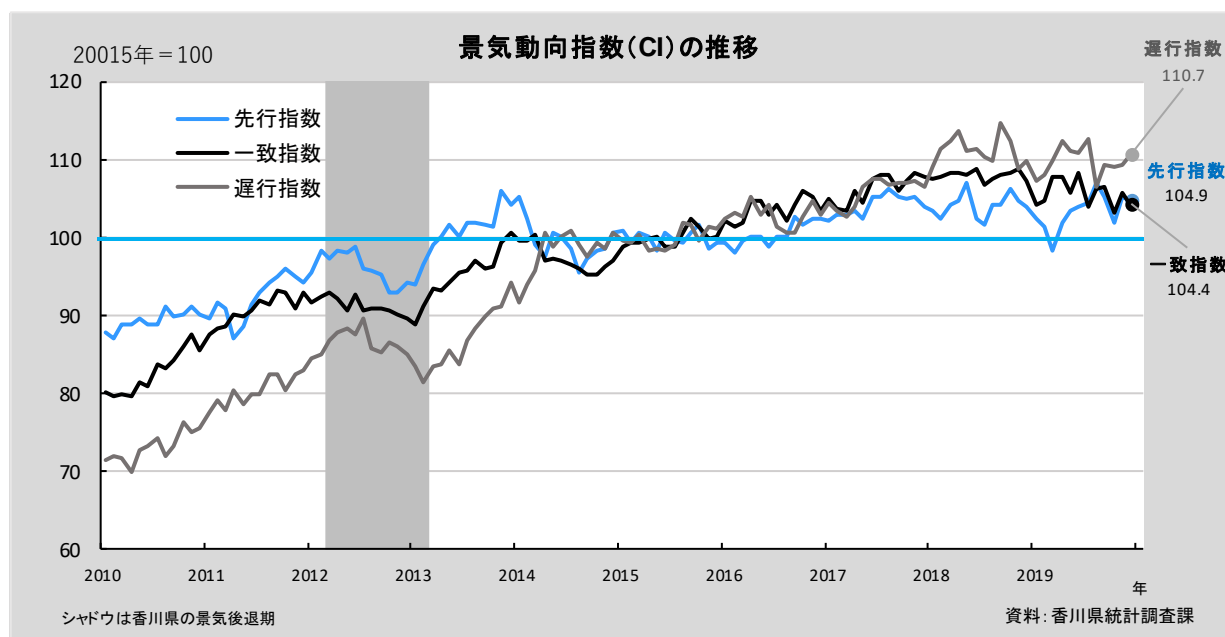


概況	景気は個人消費・住宅投資に弱めの動きもみられるものの、回復している。
個人消費	消費税増税の影響もあり、持ち直しに鈍化の兆しがみられる。
住宅投資	減少傾向となっている。
公共投資	緩やかに増加している。
生産活動	横ばい圏内で推移している。
雇用情勢	好調に推移している。
貿易	輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている。
観光	足元では弱含んでいる。

景気動向指数(かがわ CI) 先行指数 2カ月ぶり下降



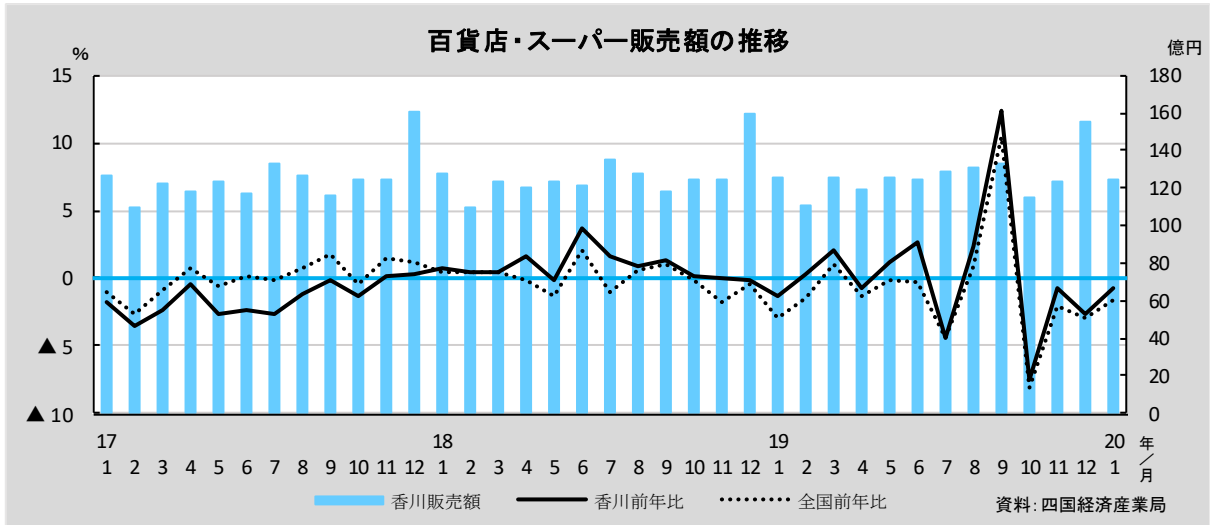
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は104.4（前月比▲1.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は104.9（同▲0.3ポイント）と、2カ月ぶりに下降。CI遅行指数は110.7（同+1.3ポイント）と2カ月連続で上昇。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、乗用車新車登録台数、生産財生産指数、新設住宅着工戸数が下降に寄与したことにより、前月から0.3ポイント下降した。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	1.45	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.03	1 常用雇用指数	▲ 0.50
	2 乗用車新車登録台数	▲ 1.03	2 有効求人倍率	0.95	2 有効求職者数	0.63
	3 鉱工業在庫率指数	0.07	3 所定外労働時間指数	▲ 0.12	3 消費者物価指数	0.23
	4 生産財生産指数	▲ 0.84	4 鉱工業生産指数	▲ 0.48	4 家計消費支出	▲ 0.10
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.74	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.97	5 鉱工業在庫指数	1.03
	6 金融機関貸出残高	0.36	6 建築着工床面積	▲ 0.60	6 法人事業税調定額	0.41
	7 消費者態度指数	0.32	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	▲ 0.22	7 第3次産業活動指数	▲ 0.61

●百貨店・スーパー販売額

4 カ月連続減少



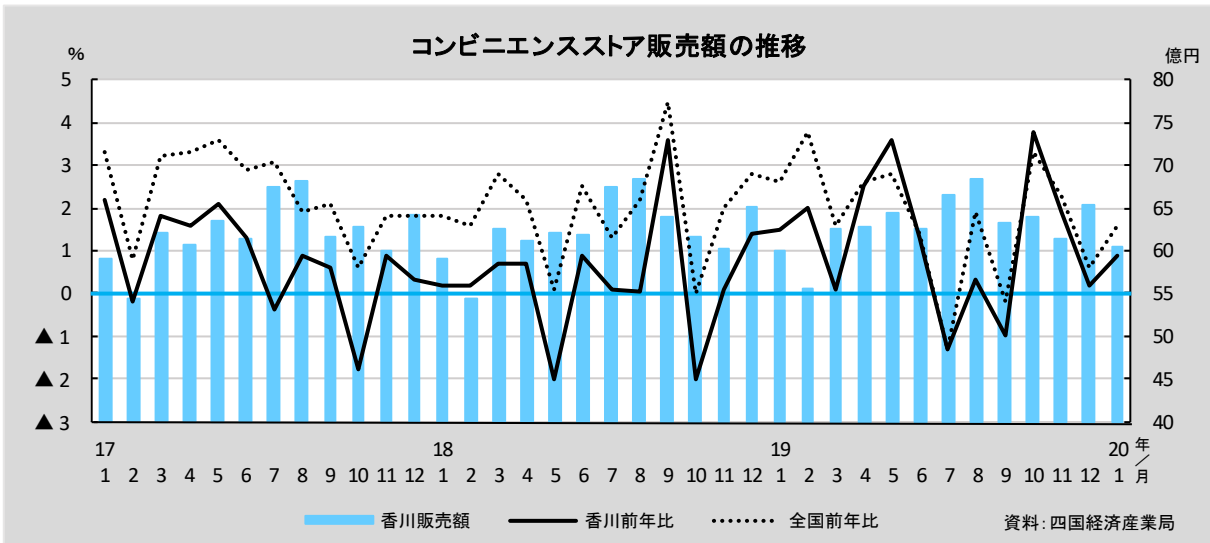
2020/1月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	140,854	74,377	846,929	2,226	6,127	63,803	113,190	1,188	1,248,694
前年同月比(%)	▲ 7.3	▲ 0.7	1.0	▲ 2.7	▲ 12.7	▲ 2.4	▲ 3.2	3.7	▲ 0.7

1月の百貨店・スーパー全店（64店）の販売額は124.9億円で前年同月比▲0.7%となった。暖冬の影響で季節商品が振るわず4カ月連続で減少した。

品目別にみると、「衣料品」はコートなどの冬物衣料の動きが鈍く同▲7.3%と前年を下回ったが、「飲食料品」は堅調で同1.0%増となった。


●コンビニエンスストア販売額

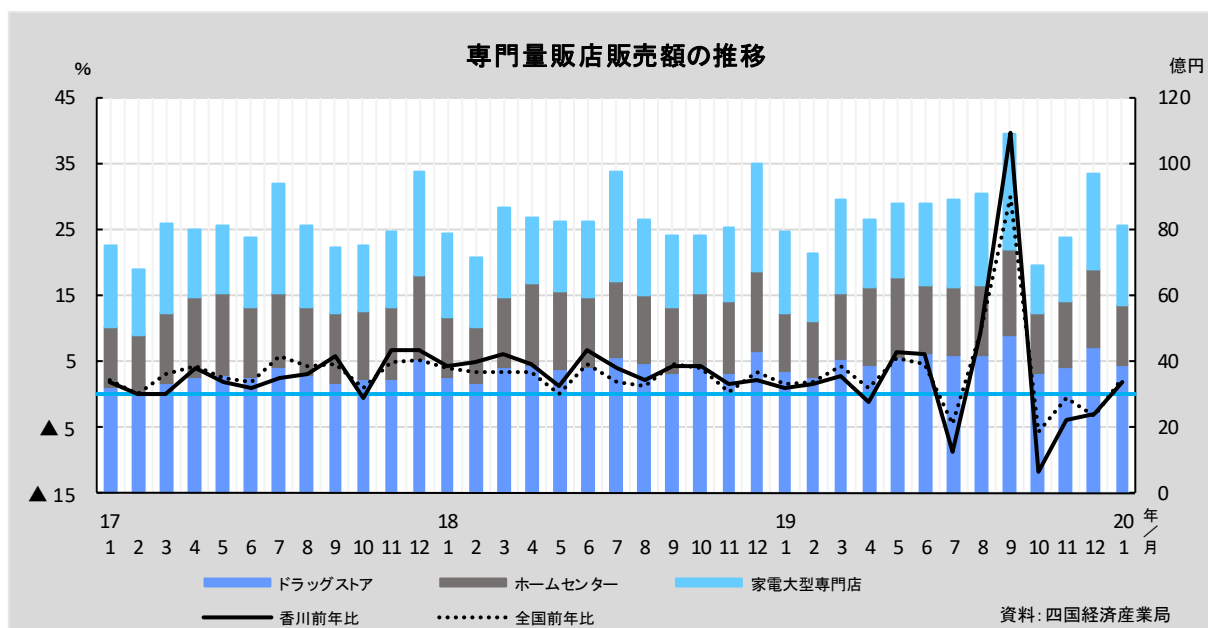
4 カ月連続増加



1月のコンビニエンスストア全店（406店）の販売額は60.5億円で、前年同月比+0.9%と4カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額


4カ月ぶり増加 

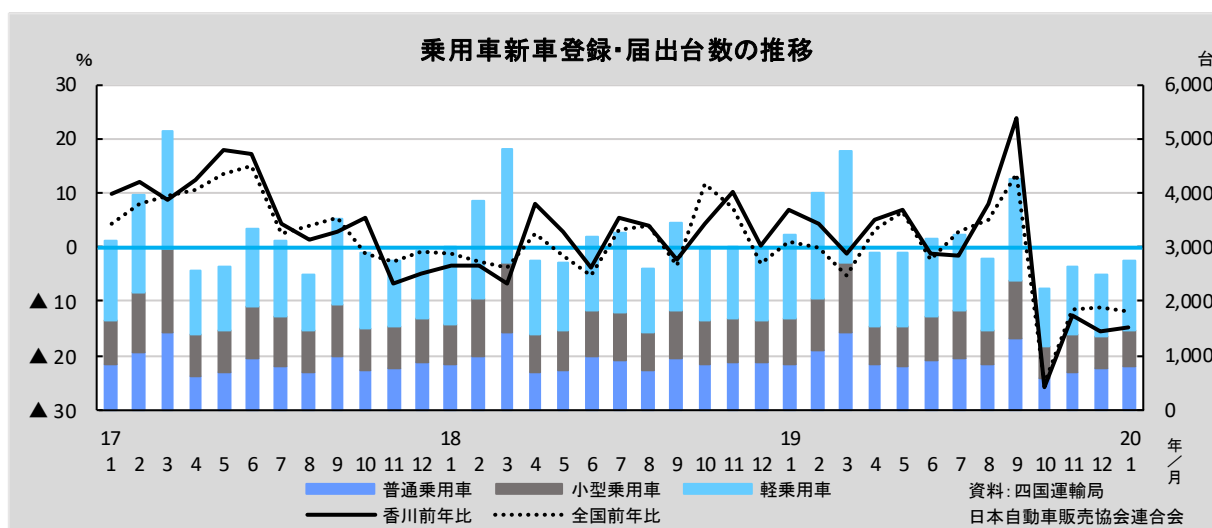


1月の専門量販店全店（198店）の販売額は81億円で、前年同月比+1.8%と、4カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、暖冬の影響で暖房器具などが不振で**家電大型専門店**（29店）の販売額は24.1億円で前年同月比▲2.8%となった。新型コロナウイルス感染の予防策としてマスクが売れ**ドラッグストア**（127店）の販売額は39.1億円で同+4.9%、**ホームセンター**（42店）もマスクが好調で、販売額は17.8億円で同+1.9%となった。

●乗用車新車販売台数

4カ月連続減少 



1月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,746台で、前年同月比▲15.0%と、4カ月連続での2ケタ減少となった。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減が続いている。

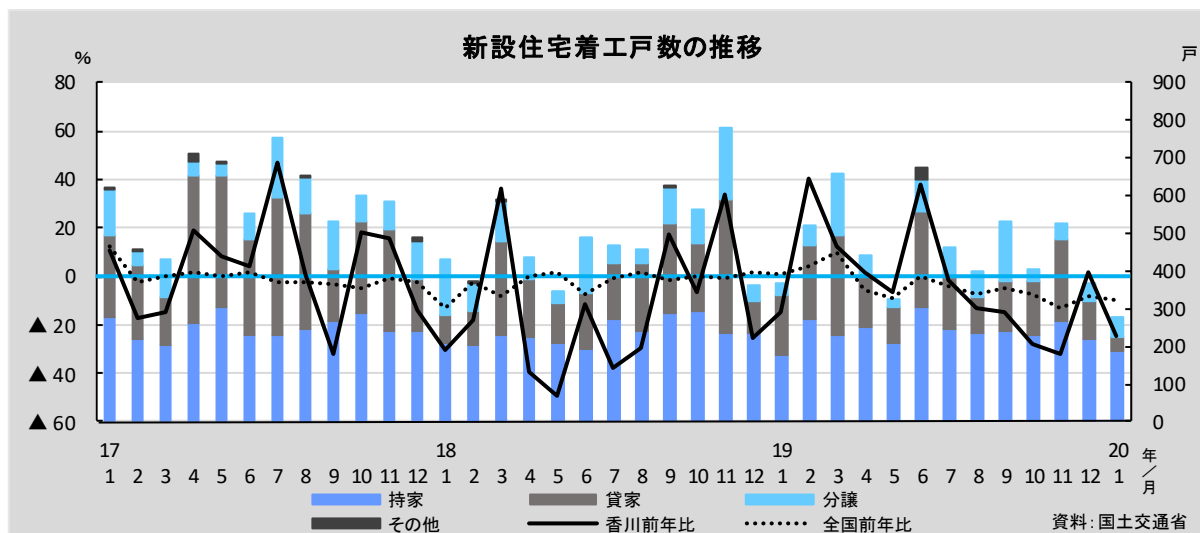
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲7.7%、小型乗用車で同▲19.6%、軽乗用車で同▲16.5%となった。

住宅投資

減少傾向となっている

●新設住宅着工

2カ月ぶり減少



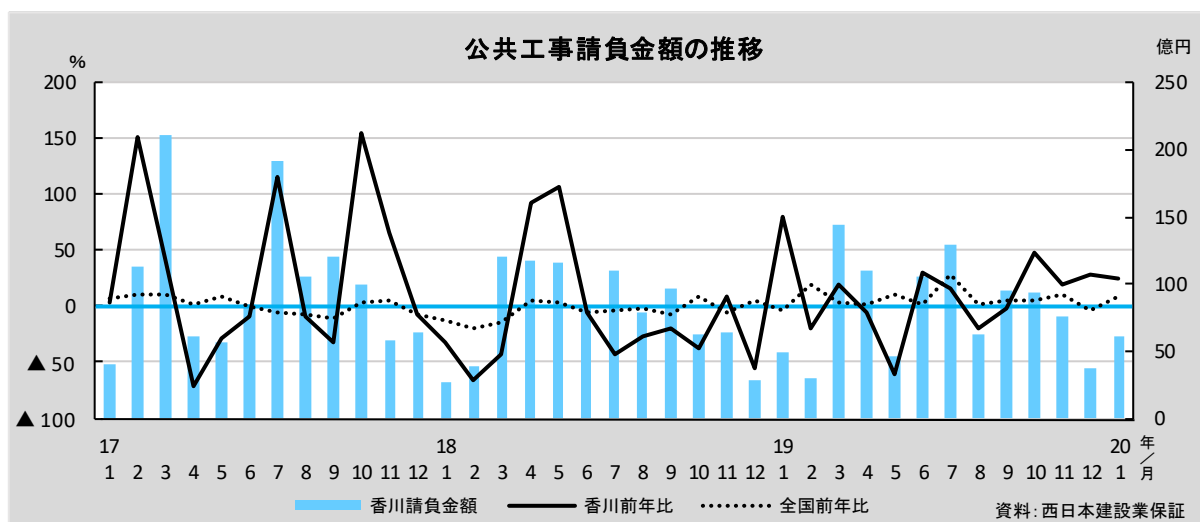
1月の新設住宅着工戸数は276戸で、前年同月比▲25.0%と、2カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+5.1%、**貸家**で同▲76.1%、**分譲住宅**で同+64.5%となった。

公共投資

緩やかに増加している

●公共工事請負金額

4カ月連続増加



1月の公共工事請負金額は61.1億円で、前年同月比+25.7%と、4カ月連続で増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+7,378.9%、**県**で同+22.4%、**市町**で同▲3.3%となった。

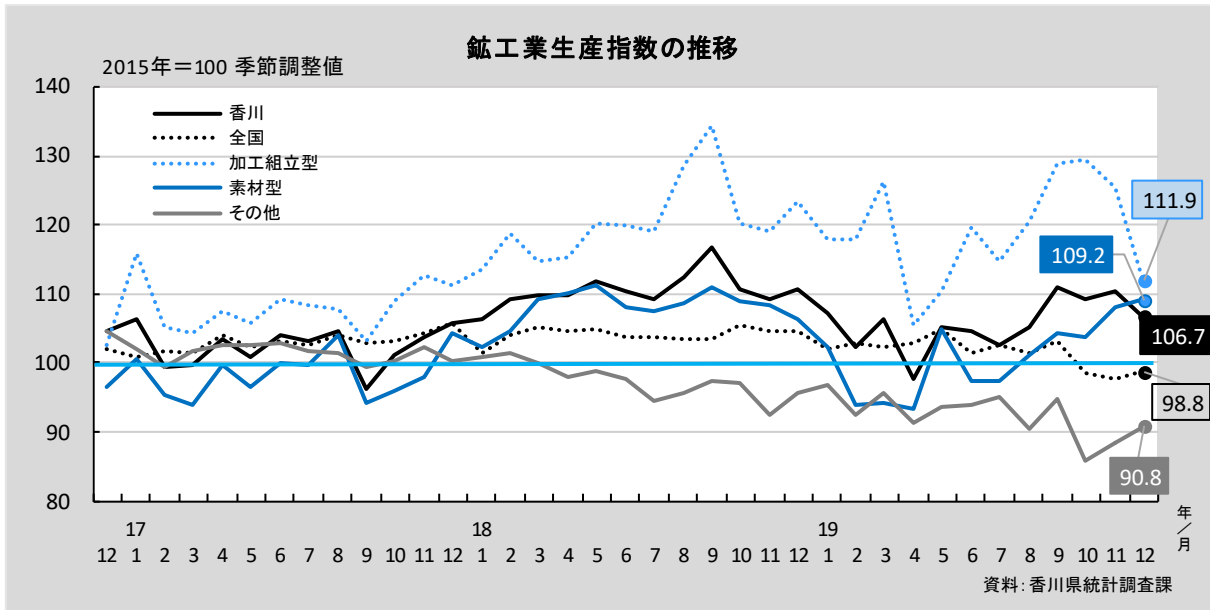
2019.4~2020.1月の年度累計では前年同期比1.5%増加している。

生産活動

横ばい圏内で推移している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり低下 ↓



12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は106.7（前月110.4）となり、2カ月ぶりに低下した。

業種別では、加工組立型の輸送機械工業（鋼船）前月比▲20.0%、素材型の化学・石油石炭製品工業（硫酸、医薬品）が同▲8.4%と低下した。

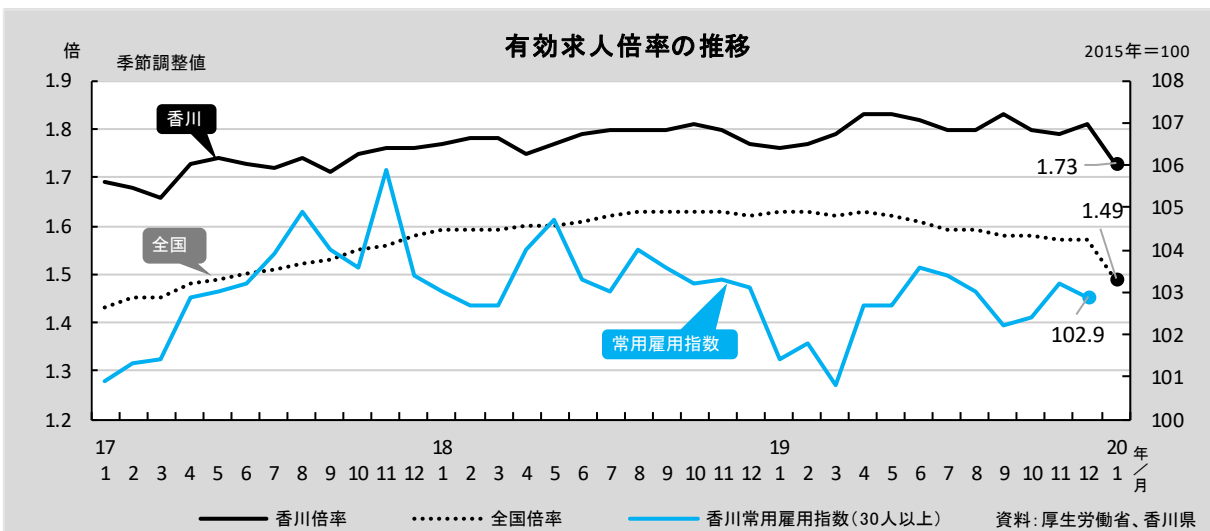
一方、素材型の非鉄金属工業（電気金）は同+7.3%と上昇した。

雇用情勢

好調に推移している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり低下 ↓



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.73倍（全国6位）と前月より0.08ポイント低下した。

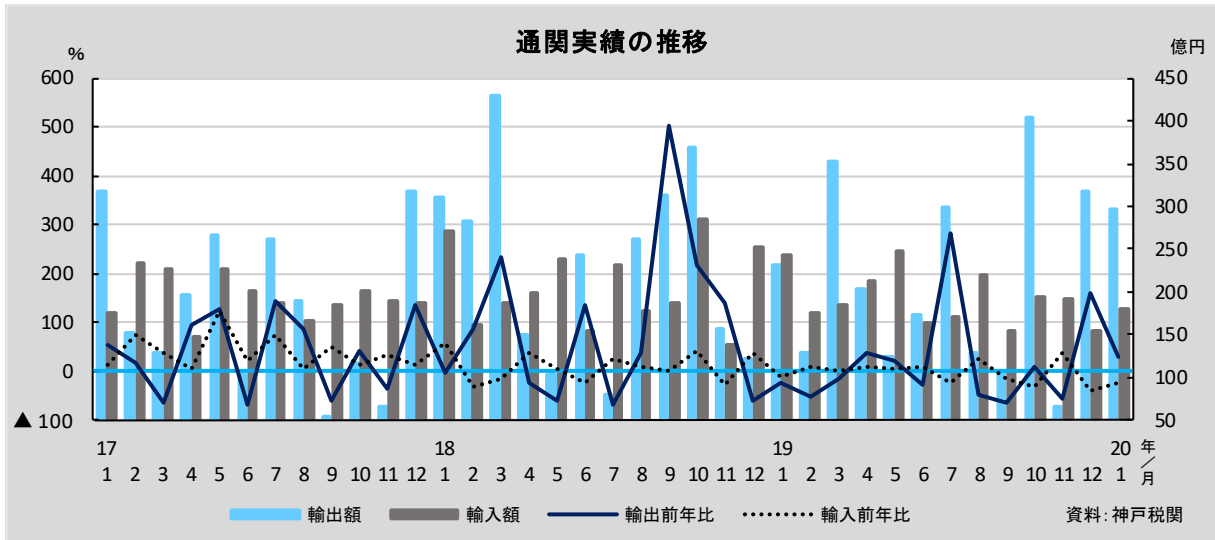
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉で増加し、卸売業・小売業、製造業等で減少となり、全体で13.9%減と2カ月ぶりに減少した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.9となり、前年同月比は5カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.67
事務的職業	0.72
販売の職業	2.39
サービスの職業	3.92
生産工程の職業	2.30
輸送・機械運転の職業	3.32
建設・採掘の職業	6.06
運搬・清掃・包装等の職業	1.10

貿易

輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている



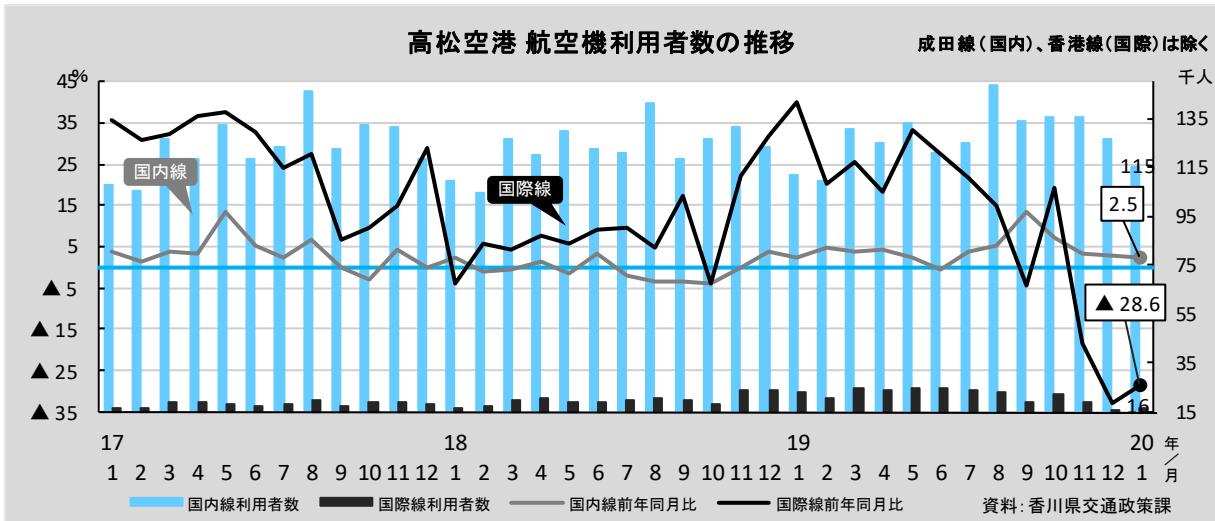
1月の通関輸出額は前年同月比+27.9%の296.3億円、輸入額は同▲25.6%の179.4億円となり、差し引き116.9億円の出超となっている。

輸出額増の主因は、前年同月では実績のなかったタンカー輸出額が80億円となったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲41.1%の63億円となったためである。

交通

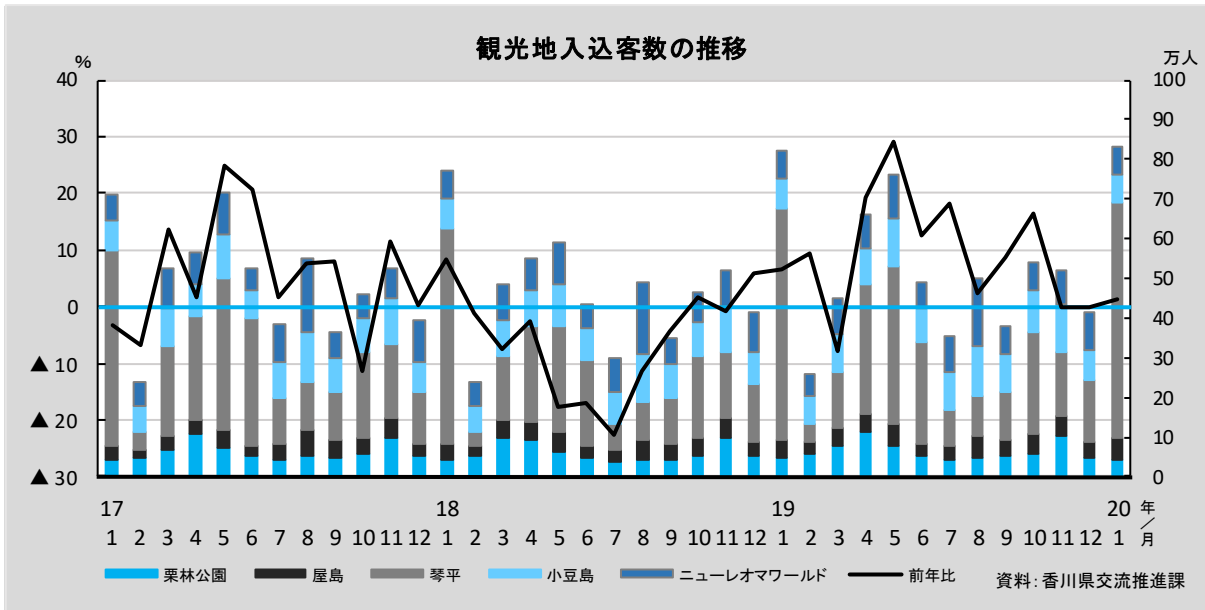
国内線は堅調、国際線は3カ月連続減少

●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が114,896人（前年同月比+2.5%）となり、7カ月連続で増加した。国際線（ソウル・上海・台北線）は16,064人（同▲28.6%）となり、3カ月連続で減少した。ソウル線が前年同月比▲58.8%、上海線が同▲8.0%となったことが影響した。

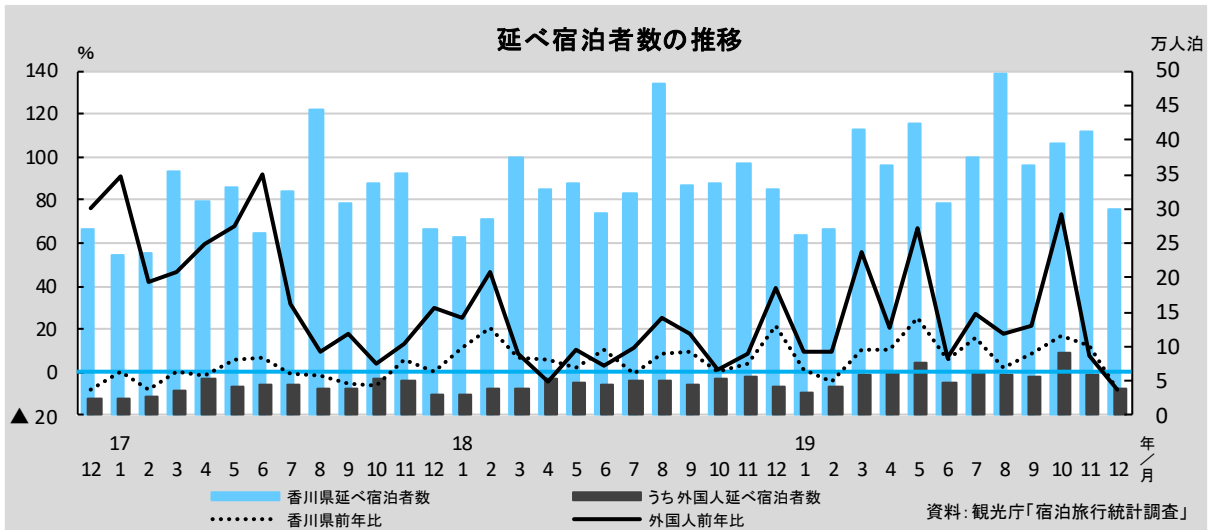
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	ニューレオマワールド	合計						
1月(人)	前年同月比	44,001	▲5.2%	54,775	12.4%	592,000	1.5%	73,315	▲0.4%	70,114	▲1.7%	834,205	1.3%

1月の主要観光地(ニューレオマワールド含む)の入込客数は、前年同月比+1.3%と3カ月ぶりに増加。屋島は+12.4%、琴平は+1.5%と増加した。一方、栗林公園▲5.2%、小豆島▲0.4%、ニューレオマワールド▲1.7%と減少した。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数は、299,550人で、前年同月比▲8.5%と10カ月ぶりに減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は、38,740人となり、同▲8.1%と20カ月ぶりに減少した。